

## 『 生きるとは何か(健康と環境) 』

学校名・名前： 尼崎市立成良中学校 ・ 竹岡 聡子  
 実践教科： 保健体育  
 指導時数： 10時間  
 対象学年： 中学校2年生(4学級) 対象人数： 143人(各学級36人)

## 1. カリキュラム

## (1)実践の目的

一年生から「環境教育」を総合的な学習の時間を中心に各教科、道徳や特別活動の教育活動全体を通じ多角的に学習してきた。生徒は、基本的な知識を身につけており、本年度は体験活動を中心に学習してきた。様々な教育活動の場面で、「命の尊さ」を主軸に据えて展開してきたため「人間を地球の一員」としてとらえ、地球上のすべての命を尊ぶ態度が養われている。これを発展させ、地球社会に目を向けるだけでなく、海外研修で得た情報を学習に活用することで、国際的な視野を持ち社会的連帯感の自覚を高め、主体的に問題解決が実践できる生徒の育成を目的とする。

## (2)授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 身近な環境を見直そう	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめに保健体育の授業で学ぶ「健康と環境」の学習についてと授業の形態や流れについて説明する</li> <li>教科書「健康と環境」環境汚染と健康の基本的用語について、教科書で確認する</li> <li>二年間の環境学習(総合的な学習の時間)について振り返る</li> <li>環境と自分の生活を振り返る</li> <li>教室環境から見直し、これからの生活につなげさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健体育の教科書</li> <li>ノート</li> <li>ワークシート</li> </ul>
2時限目 尼崎の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>「尼崎の環境」で思い出すことを考える</li> <li>班で意見交換をする</li> <li>班毎に発表する</li> <li>学級全体の意見を見直し、尼崎の町について自分の意見をまとめて、発表する</li> <li>授業の感想をまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノート</li> <li>ワークシート</li> <li>発表カード</li> <li>マジック各班2色</li> <li>磁石シール</li> </ul>
3時限目 開発途上国の環境問題とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回までの授業を振り返る</li> <li>みんなの尼崎の環境に対するイメージやその思いを振り返る</li> <li>授業者の思う尼崎と環境について写真から読みとる</li> <li>文化発表会の生徒作品を題材に現在起こっている社会問題や授業者の海外研修体験の話と環境を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒作品(模造紙1枚)</li> <li>写真13枚(各班)</li> </ul>

4・5時限目 環境問題のつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の授業を振り返る</li> <li>・ 環境問題の基本的用語の確認</li> <li>・ 環境問題のつながりを考える</li> <li>・ 環境問題解決の難しさを考える</li> <li>・ 現代社会の様子を知る</li> <li>・ 地球サミットに関する絵本の読み聞かせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健体育の教科書</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ 画用紙(各班1枚)</li> <li>・ マジック(各班3本)</li> <li>・ 写真</li> <li>・ 絵本</li> </ul>
6・7時限目 命の水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体内の水分の役割を知る</li> <li>・ 水不足の問題、砂漠化を知る</li> <li>・ 飲料水の条件、上水道の仕組みを知る</li> <li>・ 生活に必要な水を考える</li> <li>・ 無駄にしている水を考える</li> <li>・ 水を大切にする方法を考える</li> <li>・ 小さな活動の大切さを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健体育の教科書</li> <li>・ ノート</li> <li>・ 写真</li> <li>・ ワークシート</li> </ul>
8・9時限目 廃棄物の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃棄物の種類とその処理方法を知る</li> <li>・ 一日あたりのゴミの量を知る</li> <li>・ 諸外国の現状を知る</li> <li>・ 海外研修の一場面からゴミ問題とその他の問題や現状について考える</li> <li>・ 廃棄物と環境問題を考え直す</li> <li>・ ゴミの減量について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健体育の教科書</li> <li>・ ノート</li> <li>・ 写真</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ パソコン</li> <li>・ プロジェクター</li> </ul>
10時限目 私たち地球人は、環境悪化をくい止めることができるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までの学習を振り返り整理する</li> <li>・ 感じたことや考えをまとめる</li> <li>・ 環境悪化をくい止めることができるか、できないかディベートを行う</li> <li>・ 環境問題につながる様々な事柄をあげ環境対策に取り組むには何を最も重要とすればよいかを考える</li> <li>・ 学ぶことの大切さを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート</li> <li>・ ノート</li> </ul>

## 2. 授業の詳細

### 1時限目 「身近な環境を見直そう」

#### ■目標

日常生活を見直し、環境問題に対する活動は、身近なところから意識できることを確認する。

#### ■内容

##### ① はじめに

- ・ 保健体育の授業で学ぶ「健康と環境」について説明する
- ・ 授業の形態や流れ
- ・ 授業者の思い

##### ② 教科書「健康と環境」

- ・ 環境汚染と健康の基本的用語について、教科書で確認する。
- ・ 基本的用語と学習活動や日常生活の様子とつなげて説明する

##### ③ 二年間の環境学習（総合的な学習の時間）を振り返る

- ・ 印象残っている学習や体験活動は何か
- ・ わかったことや新しく学んだことは何か
- ・ 感じたことは何か
- ・ 私たちの環境は今後どうなっていくと思うか
- ・ 自分の意見をまとめて、発表させる

##### ④ 環境と自分の生活（学校での学習活動以外）を振り返る

- ・ 環境を配慮した行動が実践できているか
- ・ 実践していることについて思うこと、実践していないことについて思うことは何か
- ・ 自分の意見をまとめて、発表させる

### ◎生徒の反応

自分の住む尼崎をマイナス的に捉える意見が多くあげられていた。良いことを増やして住みよい町にしたいという意識も高かった。

また、「尼崎と環境」について話し合いや発表しあうことで、様々な意見を聞き、物の見方や考え方は人によって異なり、多角的に物事を捉えることの大切さがわかった。

### ⑤ 教室環境から見直してみよう

- ・ワークシートにあげられた10項目について、3段階でチェックして、気づいたことをまとめて発表させる
- ・これから快適な教室環境を作るために自分が努力することをまとめる

## 2時限目 「尼崎の環境」

### ■目標

- ・自分が住んでいる地域社会と環境をテーマに班で話し合い発表させる。
- ・友達の意見を聞くことで、身近な社会で様々なことがあることを知る。
- ・ものの見方・考え方は、いろいろであることがわかる。

### ■内容

- ① 「尼崎の環境」で思い出すこと  
各自で思い出すこと（良いことや悪いこと）を考えて、ワークシートの15マスに書き込む。
- ② 「尼崎の環境」を班で話し合い意見をまとめる  
・各自の意見を出し合い、カードにまとめる  
・なぜそれが良いことなのか、悪いことなのかという理由や具体的な状況なども話し合い発表の準備をする  
・班毎に発表する
- ③ 友達の意見を見直してみて自分の考えをまとめて発表する  
・尼崎の町は、どんな町だと思えるか  
・その原因や要因は何だと思えるか
- ④ 授業を終えた感想をまとめる  
・友達の意見を聞いてみて思ったことは何か

### ◎生徒の反応

環境問題の深刻さは理解しているが、「地球の裏側で起きている大きな問題」としており、特別な物として考えているようだ。しかし、環境教育の成果により「何かを実践したい」という気持ちがあり、身近なことを見直してみると、小さなことでも大切なことがわかったようだ。

## 3時限目 「開発途上国の環境問題とは」

### ■目標

- ・尼崎（自分の住む社会、日本）と海外の環境問題をつなげ、海外の環境問題を身近な課題としてとらえるような態度を養う
- ・写真から読みとれることから授業者の考えを聞く
- ・今までの学習活動の一例（生徒作品）から「環境問題」を日本以外に向けさせ、現在起きている社会問題や授業者の海外研修体験につなげて考える

### ■内容

- ① 前回までの授業を振り返る
- ② みんなの尼崎の環境に対するイメージやその思いを振り返る  
・意見を発表させる
- ③ 授業者の思う尼崎と環境について写真から読みとる  
・班隊形にさせ、写真を順番に配布する  
(1) 学校の屋上にサギがきた  
(サギについて簡単に説明する)  
(2) 庄下川と工場、鳥  
(3) 庄下川と鳥  
(4) 庄下川と鳥とゴミ  
・各写真に写る情報とその感想を発表する  
・授業者がその場面を写真に写そうと思った気持ち  
・尼崎とそこにすむ生き物について、授業者の思うこと
- ④ 文化発表会の生徒作品（開発途上国の環境問題）を題材に、現在起こっている社会問題や授業者の海外研修体験の話と環境を考える  
・開発途上国とは  
・開発途上国の環境問題は、今まで学習してきた基本的なことで、身近なこともあるが、遠い国々の外国の問題に感じている  
・「生きる」から連想されることを現在の起きている社会問題などから「様々な環境問題」につなげていく

「生きる為に必要な物は何か」  
 =生活をする→衣・食・住→お金→経済・・・思いやり  
 =生活をする→衣・食・住→エネルギー→化石燃料→自然破壊→エネルギー紛争→・・・思いやり  
 =生活する→衣・食・住→食糧問題・・・思いやり

- ・授業者の海外研修の体験より  
 インドネシアの飲料水について、水を買うこと、水道水の色、水の衛生的管理や下水処理についてなど話を聞く

### ◎生徒の反応

尼崎の町は、「便利で住みよい町だが、環境的にも良い町にしたい」という前回の授業を振り返る。「発達している」ことや「便利さ」で環境が汚染されていることを理解している。

現在起きている社会問題や授業者の体験から海外の環境問題は、環境悪化以外の様々な問題を抱えていることが、連想することにつながったようだ。

### 4・5時限目 「環境問題のつながり」

#### ■目標

- ・地球環境問題として、環境問題の全体を整理する。
- ・環境汚染の基本的用語を理解する。

#### ■内容

- ① 前回の授業を振り返りまとめる
  - ・地球環境の問題は様々な要因とつながっていることを思い出す
- ② 環境問題の基本的用語の確認
  - ・ワークシートにある関連項目について意味を確認する
- ③ 環境問題のつながりを考える
  - ・班で話し合う
  - ・用紙にまとめさせる
  - ・発表させる
- ④ 環境問題解決の難しさ
  - ・人間が生きて行くには様々な要因が結びついていることを知る
  - ・小さな活動でも多くの人が行うことの大切さを改めて見直す
  - ・資源が乱用されず、公正に分配され、将来

にわたって環境が保持されることの難しさとその理由を考える

- ⑤ 現代社会の様子
  - ・快適で便利の物を追求し続ける人間と環境（経済発展）について知る
  - ・科学技術と環境について知る
  - ・政治と環境のつながりについて知る
  - ・サミット、国連について知る
- ⑥ リオデジャネイロの地球サミットに関する読み聞かせ
  - ・小さな少女が世界の閣僚の心を動かした絵本
- ⑦ 自分に何ができるだろうか
  - ・小さなことでも実践することを考える

### 6・7時限目 「命の水」

#### ■目標

- ・生きていく上で大切な水に対する基本的知識を押さえる。
- ・水の問題をいろんな視点から考えていく。
- ・地球の裏側で起きている遠い国の問題として捉えてしまいがちなことを身近な問題として考えさせる。

#### ■内容

- ① 前回の授業を振り返りまとめる
  - ・体験談の飲料水について話を聞く
- ② 体内の水分の役割
  - ・体への水分の出入りについて知る
  - ・体内の水分の役割について知る
  - ・日本人の一人一日あたりの水の使用量はどれくらいかを知る
  - ・年齢の違いによる体の水分量を知る
  - ・水の使用量を限られたらどうなるかを考える
- ③ 水不足の問題、砂漠化
  - ・水不足による体への影響を知る
  - ・国内の水に関する環境問題を知る
  - ・国外の水に関する環境問題を知る
- ④ 飲料水
  - ・飲料水の条件、水質基準を知る
  - ・上水道の仕組みを知る
  - ・海外の飲料水の事情を知る
- ⑤ 一日の生活に必要な水
  - ・生活における水の役割を知る
  - ・海外での事情を知る

- ・インドネシアのトイレの様子を知る
  - ・国によって違う資源の考え方があることを知る
  - ・水と文化、習慣の多様性について考える
- ⑥ 無駄にしている水
- ・水の使用量を減らすことはできないかを考える
- ⑦ 水を大切にする方法
- ・使うことのできる水を増やす方法はないか考える
  - ・学校の雨水利用について聞く
  - ・水を汚さず大切にする方法はないか考える
- ⑧ 社会参画の意識
- ・小さな活動から広がる社会貢献とは何かを考える
  - ・生活を見直し、改めることから社会に貢献につながるということを考える
  - ・自分の行動が、社会みんなの健康をつくることにつながることを考える
  - ・互いに助け合って生きることの大切さを考える

- ・授業者が現地の子供との交流で感じたことを聞く
  - ・知ること、学ぶことの大切さを考える
- ⑤ インドネシアの町の様子のスライドショー
- ・生活と廃棄物の様子を読みとる
  - ・日本との違いを読みとる
- ⑥ 廃棄物と環境問題を考え直す
- ・廃棄物処理をどのようにすればよいか考える
  - ・自分の生活を振り返り、廃棄物処理の方法を考え直す
- ⑦ ゴミの減量について考える
- ・ゴミの資源化や再利用する為に分別をすることの大切さを考え直す
  - ・家庭でできること
  - ・学校でできること
  - ・外出中にできること
- ⑧ 新しい環境学習の取り組み残飯処理について考える
- ・新しく生まれる土（肥料）とその土で育つ食物や植物について考える
- ⑨ 循環型社会とは何かを考える

## 8・9時限目 「廃棄物の問題」

### ■目標

- ・健康のために廃棄物をどのように処理する必要があるのか考える。
- ・廃棄物を減少させるためにどのようなことに気をつければよいか考える。
- ・諸外国の廃棄物処理の状況と文化や習慣との関係について知る。

### ■内容

- ① 廃棄物の種類とその処理方法を知る
- ・ゴミと生活排水、尿尿の処理方法の違いを知る
- ② 一日あたりのゴミの量を知る
- ・一人一日あたりのゴミの量を知る
- ③ 諸外国の現状を知る
- ・ゴミ問題について
- ④ 海外研修の一場面からゴミ問題とその他の問題や現状について考える
- ・防災ステーションでの一場面をスライドショーでみる
  - ・防災ステーションのことや大きな災害があったことなど状況を知る
  - ・現地の日本人の活動内容や思いを知る

## 10時限目 「環境悪化をくい止められるか」

### ■目標

- ・今までの学習を振り返り、環境問題は非常に大きな問題だが、小さなことから実践し、それを続けることの必要性を再確認させたい。
- ・社会と自分のつながりを自覚させる。
- ・何かを変えるために「学び続ける」ことが大切で、生きることにつながることを理解させたい。

### ■内容

- ① 今までの学習を振り返り整理する
- ② 今までの授業を振り返り、考えたことや思ったことを文章にまとめる
- ・環境悪化をくい止めることができるか、できないかその理由も考える
- ③ 環境悪化をくい止めることができるか、できないかディベートを行う
- ・2つに別れ同じ意見の人で話し合う
  - ・班に戻り、異なる意見で討論をする
  - ・互いの意見を聞いて思ったことをまとめる

対策に取り組むには何を最も重要とすればよいかを考える

- ・ 今までの学習な内容とつながるそれぞれの項目について考える
- ・ 各自9つの項目のランキングを行う

⑤ 学ぶことの大切さを考える

- ・ 学習を振り返って、わかったことや思ったことをまとめてみる
- ・ 学ぶことで、自分自身変わったことはないか考えてみる
- ・ 学ぶことの大切さを考える

⑥ 生きるということはどういうことなのだろうか

- ・ 自分の考えをまとめてみる

### 3. 成果と課題

---

「環境問題」は、大変広範囲でどの視点から授業展開をするか選択が難しい。教科書に沿った授業展開であれば、基本的な知識や日本の情報が多く、海外研修で学んだことに時間をかけることができない。海外研修ばかりを教材にすることは、教科書から離れていくため、本来学ぶべき内容から外れていくといったことから授業計画が大変難しかった。

「環境教育」は自らが環境との関わりを判断し、その行動様式を変えようという姿勢を身につけさせなければならないと考える。そのため、2年間学習してきた総合的な学習の時間の内容や道徳、特別活動や日常生活での生活指導などあらゆることと結びつけて、自身を振り返り考えることや身近なことを知識や情報につなげる授業を展開した。また、授業者の一方的な伝達型の授業でなく、問題を提起して生徒の気づきを促せるように展開した。そのため、授業者自身が誤った知識がないよう現在も教材研究を重ね続けている状態だ。その状態で教科書以上の内容の授業展開をすることが、大変勉強になっている。しかし、授業者が情報を消化し切れていないため、計画している内容が多いことが多々あった。

通常の体育実技とは異なり、環境学習を学年全体で学習してきているため、男女共習の授業形態にした。楽しんで学べるよう従来の教科指導の枠にこだわらず、参加型の学習をたくさん取り入れたかった。しかし、時間数が限られて

いるため、教科書から離れすぎることはできない。海外研修で得た情報の一部を教材化することを心がけた。情報がありすぎ、伝えたい事柄もたくさんあったため、選択することが難しかった。今後もその他の単元でも、様々な活用することとし、今回の計画をまとめた。女子クラスで、「心身の発達と心の健康」という単元でも研修で得たことを展開しはじめている。

海外研修の情報は、生徒に開発途上国に対する偏見や誤った知識を植えつけてしまうことになりかねない。情報を活用した展開を何時限目の授業で行うか、情報の順番などにも気をつけた。

計画の段階で考えてきたことが、反映されているのか、生徒の反応も良い。2年間の環境学習により、環境を変えたいという気持ちが強く、様々な学習活動で熱心である。実際自分の生活や行動とつなげると、イメージしにくかったことが、小さなことでも大切だと改めて思い直せたようだ。また、身近なことだけでなく、国際的な視野を持って考えるきっかけとなったようだ。

地球環境の危機に対して、考え方や行動の仕方、日常生活の構造や行動を変えていかなければならない。自分自身の考え方や行動が、世界中の人々とつながっていることを想像させるだけでなく、国際的な交流に発展することができれば、より一層身近なこととして捉え、将来地球を支える地球人としての資質を身につけることができると思う。